本書の特長と使用法

大学入試の英語で長文読解が重要な位置を占めていることは，言うまでもありません。特に国公立大の二次試験では，内容説明などを求める記述形式の出題がされる場合が多く，受験生には語彙・文法・語法に関する基本的な知識だけではなく，文構造・文脈の把握力，出題者の意図を理解する力や英語・日本語の表現力も求められます。

本書は，長文読解力の養成と大学入試の実戦演習を目的として編集されています。題材としては，全国の国公立大学で出題された入試問題から，長文読解におけるさまざまな記述の設問形式を含むものをピックアップし，話題も幅広いジャンルに及ぶように配慮しています。また各問の英語には，語彙・文法・語法・文構造などの面からも重要なものが多く含まれていますので，これらを精読することにより英語力向上の一助としていただけるものと思います。

◇本書の構成

本書は **PART I**，**PART II** 各 10 題ずつから成り，主として設問の難易度が「易から難へ」と向かうように，ただし近似したテーマの文章が続くことを避けるなど，その他の要因も勘案しつつ配列してあります。難易度は，文章自体の読み難さではなく設問に対する答え難さを基準に，★の数により 3 段階に分類して表記してあります。なお本書では，主として内容の豊かな文章やさまざまな形式の設問に触れることで多くを学ぶことが見込めることを基準に問題を選んであります。中には文章中の文法や表現の細部に，また設問の形式の適切さや出題意図の明快さなどに，若干の不自然さや不適切さなどの難を含んでいる場合もありますが，それだけを理由に掲載を断念する方針は取ることはせず，また必ずしも完璧な文章に完璧な設問が付いた問題ばかりが実際の大学入試に用いられているわけではない現状を鑑み，あえて修正を加えることなく出題されたままの形のものを使用しました（ただし，設問や選択肢に用いられる番号・記号等に関しては，本書全体を通じて統一を図ってあります）。解説中では，文法･表現などの面で疑問が感じられる点についてはこれらを指摘して注意を喚起するように，またいくらか改善の余地を感じさせる設問に対しても実戦的にはいかに対処するのが適切かという方向を示すように心掛けました。

◇効果的な学習方法

(1) まず，試験場で本番に臨んだ気持ちで集中して自力のみで答案を作成します。Lesson ごとに示してある目標解答時間が目安になりますが，多少の延長は適宜行っていただいて構いません。

(2) 次に，英文全体を辞書等の助けを借りて精読し，必要に応じて最初に作成した解答に修正を加えます。

sample

(3) 解答・解説を熟読した上で，自分の解答を検証・吟味してみます。十分に文章の内容を理解し，設問の意図とそれに対してふさわしい解答がどのようなものかについて納得がいけば，とりあえずその Lesson はクリアできたと考えて良いでしょう。なお「注意すべき語句・表現」では，通常と異なる意味で用いられている表現や文構造を把握し難い箇所を中心に解説してあり，大学入試レベルを超えるような難語などでも，辞書で調べればわかると思われるものは敢えて取り上げていません。積極的に自分で辞書を引く習慣をつけていただければ，という意図によるものと御理解ください。

(4) ダウンロードした音声は，この段階で用います（ダウンロード方法については **PART I** の前頁を参照）。文字を目で追わずに音声だけを聴いて，全て聴き取り理解することが目標です。最初はテキストを見ながらでないと聴き取るのは難しいでしょうが，何回か繰り返すうちに，文字無しでも理解できるようになるはずです。このような練習により，リスニング能力の向上と共に，音としての英語のリズムに慣れることで速読力を養うことが期待できます。

(5) 一定の期間が経過した後で復習します。いろいろと忘れていたことを思い出したり，理解が曖昧だったことに気づかされたりするでしょう。不明な点については，解答・解説を読み返すことはもちろん，必要に応じて改めて辞書等の助けを借りて理解に努めてください。復習を繰り返すことで初めて身につくものは，非常に多いはずです。

◇学習上の指針

英文を読むときには，設問がどのようなものであるかに関わらず，文章全体として何が言いたいのか，という強い問題意識を常に持つことが必要です。また，本書には比較的読みやすい英文からかなり読み応えのある英文までが含まれていますが，英文の難易度と設問の難易度が必ずしも一致しない場合もあります。英文の易しさから設問を甘く見て侮ると思わぬ誤りを犯しがちであり，一方では，難解と思われる英文も諦めずに虚心に読み進めれば，設問に対する解答へのヒントが見つかる場合も多いものです。じっくりと腰を据えて 20 題の各英文に取り組み，出来るだけ多くのものを吸収してほしいと思います。文章が自分の中を素通りするような，何も後に残らない接し方をしては，せっかく縁あって読む機会を得た英文をみすみす無駄にしてしまうことになります。大学入試の時点での英語の実力は，それまでに真剣に取り組んだ英文の量に，かなりの程度まで比例するものなのです。

（編集責任者）山際　伸治

sample

目　次

PART Ⅰ

Lesson 1　（医療）　冬の災厄 8
Lesson 2　（生活）　利便性の追求が招く矛盾 12
Lesson 3　（労働）　日本の長時間労働 14
Lesson 4　（コミュニケーション）　議論とは何か 18
Lesson 5　（環境）　加速する海洋汚染 22
Lesson 6　（コミュニケーション）　笑顔 26
Lesson 7　（児童心理）　言語を巡る母子の葛藤 30
Lesson 8　（生活）　ミニマリストの車選び 34
Lesson 9　（ストーリー）伯父の出征の日 38
Lesson 10　（人類）　目・脳の大きさと緯度 42

PART Ⅱ

Lesson 11　（エッセイ）　2000 年の若者への忠告 46
Lesson 12　（心理）　退屈さから創造性へ 50
Lesson 13　（労働）　職場と家庭におけるストレス 54
Lesson 14　（教育）　読書嫌いの理由 58
Lesson 15　（動物）　ゴリラの手話 62
Lesson 16　（心理）　ケーキの分配法 68
Lesson 17　（学問）　すぐれた研究者の条件 72
Lesson 18　（社会）　少子高齢化対策 76
Lesson 19　（社会）　アメリカの慈善活動 80
Lesson 20　（国際）　グローバル化の影響 84

テーマ別目次

医療	Lesson 1	児童心理	Lesson 7	教育	Lesson 14
生活	Lesson 2, 8	ストーリー	Lesson 9	動物	Lesson 15
労働	Lesson 3, 13	人類	Lesson 10	学問	Lesson 17
コミュニケーション	Lesson 4, 6	エッセイ	Lesson 11	社会	Lesson 18, 19
環境	Lesson 5	心理	Lesson 12, 16	国際	Lesson 20

sample

本書の構成

目標解答時間と難易度

各問題には**目標解答時間**と**難易度**が示してあります。

目標解答時間は実際の入試でその問題に費やせる時間の目安です。

難易度は以下のマークで示してあります。

- ★☆☆　易〜やや易
- ★★☆　標準
- ★★★　やや難〜難

◇◇ 出　典 ◇◇

PART Ⅰ

1	宇都宮大学	**2**	滋賀大学	**3**	静岡大学
4	大阪府立大学	**5**	秋田県立大学	**6**	新潟大学
7	福島大学	**8**	岩手大学	**9**	広島大学
10	岡山大学				

PART Ⅱ

11	宮崎大学	**12**	鹿児島大学	**13**	金沢大学
14	宮城教育大学	**15**	愛知県立大学	**16**	三重大学
17	東京農工大学	**18**	小樽商科大学	**19**	横浜市立大学
20	高知大学				

sample

file-01

Lesson 1 （医療） 冬の災厄

★☆☆
20 分

◆次の英文を読んで，(A)〜(H)の問いに答えなさい。

著作権の都合上，サンプルでは省略しています。

sample

— *Reading for Speed and Fluency 4* by Nation and Malarcher

（宇都宮大・403 words）

(A)　下線部(1)と同じような意味を持つ表現として，最も適切なものを下のア～エのうちから選び，記号で答えなさい。

ア　look over　　イ　put up with

ウ　recover from　　エ　run through

(B)　下線部(2)と同じような意味を持つ英語を本文中から１語選び，本文に合うように語尾を変えて答えなさい。

(C)　下線部(3)の指している具体的な内容を他の英語で書きなさい。

(D)　（ 4 ）に入る最も適切な語を下のア～エのうちから選び，記号で答えなさい。

ア　how　　イ　when　　ウ　where　　エ　which

(E)　下線部(5)の意味を日本語で説明しなさい。

sample

(F) 下線部(6)を日本語に訳しなさい。

(G) 次のそれぞれの英文について，本文の内容に合うものには○，合わないものには×で答えなさい。

ア Among flu symptoms, we have a high temperature, a sore throat, a cough and fatigue.

イ Flu medicines bring down temperature, stop coughing and kill the flu virus.

ウ It seems that the “dead” virus is actually more effective than the shot of the live virus.

エ Making a flu vaccine is difficult because the flu virus may change and a new type of flu may appear every year.

オ Preventing an illness is equally as important as curing an illness.

(H) 本文のタイトルとして，次のア～オのうち最も適切なものを選び，記号で答えなさい。

ア Flu Medicines
イ Flu Prevention
ウ Flu Season
エ The Flu and its Symptoms
オ The Flu and the WHO

sample

Lesson 1　冬の災厄

全訳

著作権の都合上，サンプルでは省略しています。

sample

注意すべき語句・表現

第１段落（Most of us ...）

◇ the winter, or “flu season” as it is also known「冬，すなわちインフルエンザの季節とも知られているが」　or は A(,) or B で「A すなわち B」という同意語での「言い換え」を示す用法。it は the winter を指す。この as の用法についてはさまざまな説明の仕方がされるが，以下のような例などと共に「話者［筆者］のコメント」を表す節を導く接続詞，などと理解しておくと良いだろう。　**（例）**He was a great conductor, *as* everyone *knows*.（誰もが知っていることだが，彼は偉大な指揮者だった）

◇ get a sore throat「のどが痛くなる；咽頭痛［炎］を起こす」

◇ feel right「体調が良い」

◇ help「〈病気など〉を治す；〈苦痛など〉を和らげる」

第２段落（There are some ...）

◇ from year to year「年ごとに［年によって］〈異なる〉」　一般に from A to A で「A から A へ」以外に「A ごとに［A によって］〈異なる〉」の意味も表す。　**（例）**Habits and customs vary *from country to country*.（風俗習慣は国によって異なる）

第３段落（A flu vaccine ...）

◇ there is a new type of flu going around「新しい種類のインフルエンザが広まっている」　there be ... − ing で「…が − している状態でいる［ある］」の意味。　**（例）***There were* a lot of farmers *working* in the fields.（畑では多くの農民たちが働いていた）

第４段落（There are two ...）

◇go up ...「…を上る」　この場合の up は「…を上って［上方へと］」という意味の前置詞。吸引式のワクチンが鼻の穴から鼻腔へと吸い込まれる方向性を表している。

◇live virus「生ウイルス」　弱毒化されてはいるが生きたままのウイルス。ただし，インフルエンザ用ワクチンのものは日本では 2022 年現在未承認。

考え方

(A)　get over ... は(1)「〈塀・川など〉を越える」が原義だが，比喩的に(2)「〈困難など〉を乗り越える」，(3)「〈病気など〉から回復する」の意味でも用いられる。下線部 get over it の it は，1 文中の前半に We feel pretty bad と書かれたその「かなりの体調の悪さ」と考えられるので，ここでの get over は(3)の意味。したがって，ウの recover from ...（…から回復する）が正解。他の選択肢はそれぞれ，アの look over ... は「…に目を通す」，イの put up with ... は「…に耐える」，エの run through ... は「…を走り抜ける」などの意味。

(B)　下線部で用いられている go around は，ここでは「〈病気などが〉広まる」の意味。第４段落第３文（Since it cannot ...）に用いられている spread が同様の意味なので，これを現在分詞の spreading に形を変えて答えれば良い。

(C)　下線部を含む１文 So, the flu vaccine needs to be updated every year, and the World Health Organization does just that. は「そういうわけで，インフルエンザ・ワクチンは毎年アップデートが必要であり，世界保健機構がまさにそれを行っている」という意味なので，updates the flu vaccine every year（毎年インフルエンザ・ワクチンをアップデートする）と答えれば良い。just に関しては，これが付くことで「指している具体的な内容」が変わるわけではないので無視して構わないだろう。

(D)　空所に入る語が導く researchers study the new flu viruses, share their findings, and work together to come up with a new vaccine each year という部分は，それだけでも完全な文として成り立ち，「毎年新たなワクチンを作り出すために，研究者たちが新しいインフルエンザ・ウイルスの研究を行い，発見を共有して協働する」という意味。したがって「場所」と捉えられる centers を先行詞として節中で副詞として働く関係副詞としてのウ where が入れば，文法に適い文意も適切になるため，これが正解。

(E)　下線部を含む１文及びその直前の１文（One is a ...）は「一方は『死んだ』ウイルスの注射で，ワクチン中のウイルスは自己複製できないように処置が施されている。それは拡散も強化もできないので，実質的に死んでいるのである」という意味（basically には「基本的に」以外に「本質的に」という意味がある）。接続詞 since を用いて示されている理由は「拡散も強化もできない」という内容なので，この部分とここでの basically の意味についての解釈が伝わる答え方をすれば良いだろう。ただし，生物の定義は一般に(1)「自己複製を行う」，(2)「代謝を行う」，(3)「細胞により構成されている」とされているので，「拡散［＝自己複製］できない」とくらべて「強化できない」の方は重要性が低い，とも考えられる。

(F)　◇**The increased use of both types of vaccines has greatly decreased ...**「双方の種類のワクチンの使用が増えたことが，…を大いに減少させた」　The increased use of ... は直訳すれば「…の増加した使用」となるが，自然な日本語とは言えないので「…の使用の増加［が増えたこと］」くらいに意訳して良いだろう。また，一般に「〈種類〉＋ of ＋ ...」という形は「〈数量〉＋ of ＋ ...」と同様に「…の〈種類〉」以外に「〈種類〉の…」というニュアンスでも用いられるので，ここでの both types of vaccines も「ワクチンの双方の種類」より自然な「双方の種類のワクチン」という訳を用いれば良い。　**（例）** *That kind of book* was banned in those days.（当時はその種の書物は出版禁止になった）

◇**the numbers of deaths resulting from the flu virus each year**「毎年のインフ

Sample

ルエンザ・ウイルスを原因とする死亡数」　result from ... は「…の結果として生じる；…が原因である」という意味で，ここでは現在分詞 resulting の導く形容詞句 resulting from the flu virus が deaths を修飾している。each year は has ... decreased を副詞的に修飾しているとも，the numbers を形容詞的に修飾しているとも考えられ，ここは後者の解釈に則(のっと)って訳した。

(G)　ア　「インフルエンザの症状の中には，高熱やのどの痛み，咳や倦怠がある」　インフルエンザの症状として，第１段落第２文（We get a ...）に高熱，のどの痛み，咳が，第３文（Our bodies do ...）に倦怠感が挙げられているため，合っている。

イ　「インフルエンザ用の薬品は体温を下げ，咳を止め，インフルエンザ・ウイルスを殺す」　第１段落最終文（They can bring ...）に「例えばそれら［＝インフルエンザ用の薬品］は熱を下げたり咳を止めたりはするが，インフルエンザ・ウイルスを撃退するわけではないのである」とあり，薬品は解熱や咳止めにはなってもウイルスを殺しはしないため，合わない。

ウ　「『死んだ』ウイルスは生きたウイルスの注射より，実は効果的であると思われる」　最終段落第７文（It seems that ...）の「生きたウイルスの方が，死んだウイルスの注射に比べて実は効果的であるようである」という内容から実情と合わないと思われるし，そもそも「生きたウイルスの注射」については文中に言及がない。

エ　「インフルエンザ・ワクチンの製造は，毎年インフルエンザ・ウイルスが変化する可能性があり，新たな種類のインフルエンザが出現する可能性があるため，困難である」　第２段落第５文（However, the flu ...），最終文（This makes it ...）の「しかし，インフルエンザ・ウイルスは年ごとに変化するため，ワクチンの製造は困難になっている」という内容に合っている，と言えるだろう。ただし，本文はこの選択肢のように may を用いることなく，より断定的な表現を用いている。

オ　「病気を予防することは，病気を治療することと等しく重要である」　第２段落第２文（Of course, it ...）の「もちろん，病気は治療を試みるより予防に努める方が良い」という内容と合っていない。

(H)　筆者は，第１段落（Most of us ...）でインフルエンザの症状や対症的薬品を紹介した後，第２段落第２文（Of course, it ...）で「もちろん，病気は治療を試みるより予防に努める方が良い」とした後は，文末まで予防用のワクチンについての説明に終始している。したがって，イ「インフルエンザの予防」がタイトルとして適切と言える。なおこの文章に付ける日本語のタイトルとしても，やはりストレートな「インフルエンザの予防（策）」などが最もふさわしいが，そのままではこの設問に対する解答のヒントとなってしまうので，Lesson 1 のタイトルには別のものを採用してある。

他の選択肢はそれぞれ，ア「インフルエンザの薬品」，ウ「インフルエンザの季節」，エ「インフルエンザとその症状」，オ「インフルエンザと WHO」という意味。

解答

(A)　ウ
(B)　spreading
(C)　updates the flu vaccine every year
(D)　ウ
(E)　自己複製して拡散したり強化したりできないため，本質的には死んでいること。
(F)　双方の種類のワクチンの使用が増えたことが，毎年のインフルエンザ・ウイルスを原因とする死亡数を大いに減少させた。
(G)　ア　○　　イ　×　　ウ　×　　エ　○　　オ　×
(H)　イ

sample